

2019年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年11月6日

 上場会社名 りらいあコミュニケーションズ株式会社
 コード番号 4708 URL <https://www.relia-group.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 網野 孝

問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR室長 (氏名) 岩本 健一郎 TEL 03-5351-7200

四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 2018年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	55,888	4.7	2,261	22.4	2,316	23.7	1,327	2.4
2018年3月期第2四半期	53,372	17.2	1,847	15.0	1,873	12.8	1,296	8.1

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 617百万円 (113.0%) 2018年3月期第2四半期 289百万円 (71.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	19.27	
2018年3月期第2四半期	18.81	

(参考) のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)

2019年3月期第2四半期 2,167百万円 (0.1%) 2018年3月期第2四半期 2,166百万円 (52.9%)

調整後EPS 2019年3月期第2四半期 31.45円 2018年3月期第2四半期 31.44円

(注) 調整後EPS : のれん償却前当期純利益 / (期末発行済株式数 - 期末自己株式数)

四半期においては、「当期」を「四半期」、「期末」を「四半期末」に読み替えて計算

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	63,275	47,358	74.8	687.03
2018年3月期	67,123	48,248	71.9	699.89

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 47,350百万円 2018年3月期 48,236百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		18.00		18.00	36.00
2019年3月期		18.00			
2019年3月期(予想)				18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	112,800	2.7	5,300	0.2	5,400	1.0	3,100	9.0	44.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(参考) のれん償却前当期純利益 2019年3月期通期 4,800百万円 (6.7%) 調整後EPS 2019年3月期通期 69.65円

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2 社 (社名) Inspiro Relia Nicaragua,S.A.
 (旧SPi Global (Nicaragua)
 Solutions,S.A.), Inspiro Relia 除外 2 社 (社名) 株式会社ボイスネクスト、株式
 US,Inc.(旧CRM US,Inc.) 会社ヴィクシア

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期2Q	69,503,040 株	2018年3月期	69,503,040 株
期末自己株式数	2019年3月期2Q	582,171 株	2018年3月期	582,144 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期2Q	68,920,882 株	2018年3月期2Q	68,920,896 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は緩やかな拡大を続けました。海外経済は緩やかな拡大が続く一方、米国の通商政策などを背景に先行きの不透明感が強まりました。当社グループが属するBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)業界では、企業が直面する課題を解決するための堅調なアウトソーシング需要がある一方、労働需給の逼迫の影響が強まりました。

こうした中、当第2四半期連結累計期間においては、アルバイトを含めた従業員に対し「長期障害所得補償制度」を導入したほか、札幌市に「札幌創世スクエアセンター」、また大阪市に「大阪トレードピアセンター」を開設するなど、堅調な需要に応えるべくグループのサービス提供能力の拡大を図りました。また、株式会社ボイスネクスト及び株式会社ヴィクシアの株式を譲渡し、事業ポートフォリオの見直しを実行しました。

売上面では、前年同期にあった官公庁向けスポット業務終了の影響があったものの、継続業務では公益、金融向けを中心に昨年度から続くアウトソーシング需要を取り込み、底堅く推移しました。また、海外連結子会社は昨年度に立ち上げた米国第2センターでの業務が拡大しましたが、全体としては緩やかな伸びにとどまりました。利益面では、前年同期にあった官公庁向けスポット業務終了や海外連結子会社における業務ロケーション変更による採算性の低下などの影響があったものの、国内における既存業務の生産性改善や受注の拡大などで補いました。また、株式会社ボイスネクストの譲渡及び投資有価証券の評価損に伴う特別損失を計上しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高55,888百万円(前年同四半期比4.7%増)、営業利益2,261百万円(同22.4%増)、経常利益2,316百万円(同23.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,327百万円(同2.4%増)となりました。

また、当第2四半期連結累計期間ののれん償却前営業利益(営業利益+のれん償却費)は、3,101百万円(同14.1%増)、のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却費)は、2,167百万円(同0.1%増)となりました。

なお、当社はInspiro Relia, Inc. (旧SPi CRM, Inc.)等の買収に伴うのれん償却費用の影響等を鑑み、のれん償却前営業利益、のれん償却前純利益を経営指標として採用しております。

セグメント別の業績は以下の通りです。

コンタクトセンター事業

公益、情報、流通向けを中心に業務が開始、拡大しました。また、海外連結子会社では米国第2センターでの業務が拡大しました。以上の結果、当事業の売上高は45,088百万円(同5.6%増)となりました。

バックオフィス事業

前年にあった官公庁向けスポット業務が終了した影響がありましたが、金融向けを中心に継続業務が拡大したことで、当事業の売上高は7,678百万円(同1.6%増)となりました。

フィールドオペレーション事業

事業の体質改善を目的に選別受注を進めるなどした結果、当事業の売上高は3,121百万円(同0.2%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、63,275百万円となり、前連結会計年度末比3,847百万円の減少となりました。主な増加は、仕掛品150百万円、有形固定資産439百万円であり、主な減少は、現金及び預金1,255百万円、受取手形及び売掛金1,564百万円、のれん1,316百万円、投資その他の資産1,181百万円です。

負債は、15,917百万円となり、前連結会計年度末比2,957百万円の減少となりました。主な増加は、賞与引当金71百万円、資産除去債務102百万円であり、主な減少は、買掛金748百万円、短期借入金1,030百万円、未払金489百万円、未払法人税等770百万円です。

純資産は、47,358百万円となり、前連結会計年度末比890百万円の減少となりました。主な増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益1,327百万円であり、主な減少は、剰余金の配当金による支払1,240百万円、為替換算調整勘定651百万円によるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の71.9%から74.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、15,015百万円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して450百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって獲得したキャッシュ・フローは、2,412百万円(前年同四半期は2,644百万円の獲得)となりました。主な増加は、税金等調整前四半期純利益1,861百万円、売上債権の減少額1,548百万円、のれん償却額839百万円であり、主な減少は、法人税等の支払額1,260百万円、仕入債務の減少額728百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって使用したキャッシュ・フローは、1,713百万円(前年同四半期は481百万円の使用)となりました。主な増加は、投資有価証券の売却による収入52百万円であり、主な減少は、有形固定資産の取得による支出1,031百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出101百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって使用したキャッシュ・フローは、2,003百万円(前年同四半期は1,867百万円の使用)となりました。主な減少は、配当金の支払額1,240百万円、短期借入金の減少額759百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2018年5月11日に「平成30年3月期 決算短信」で開示いたしました業績予想を変更することといたしました。詳細は、本日開示いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

また、当社グループは、2021年3月期までの新たな中期計画である「事業戦略2020」を策定いたしました。当社グループを取り巻く環境は複雑化、不確実性が高まっています。具体的には、お客様企業・消費者ニーズの潜在化や社会の急速なデジタル化の進展、社会イベント需要の複雑・複合化に加え、それに対応する人材労働市場は逼迫の度合いを強めています。また、海外市場においても同様に、多様性、複雑性の更なる高まりがみられます。こうした環境下、同戦略では「高付加価値サービスの提供による新たな顧客体験価値(CX/Customer Experience)の創造」をテーマに、「デジタルシフト」「企画提案力の強化」「海外事業の推進」「人材強化・総合力の発揮」の4つのイノベーションを起こすことで、更なる企業価値向上を目指してまいります。同戦略の実行により、計画期間を通じ収益性の改善を進め、2021年3月期ののれん償却前営業利益率8%を目指します。詳細は、本日開示いたしました「事業戦略2020の策定に関するお知らせ」をご参照ください。

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって、予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありましたInspiro Relia Nicaragua, S.A. (旧SPi Global (Nicaragua) Solutions, S.A.) 及びInspiro Relia US, Inc. (旧CRM US, Inc.) は、重要性が増したことにより連結子会社として連結の範囲に含めております。また、連結子会社でありました株式会社ボイスネクストは、保有株式売却に伴い連結の範囲から除外しております。

当第2四半期連結会計期間において、連結子会社でありました株式会社ヴィクシアは、保有株式売却に伴い連結の範囲から除外しております。

この結果、2018年9月30日現在で、当社グループの連結子会社は9社、持分法適用関連会社は2社となりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,270	15,015
受取手形及び売掛金	17,867	16,302
仕掛品	1,260	1,411
貯蔵品	32	24
その他	1,657	2,355
貸倒引当金	△22	△29
流動資産合計	37,066	35,078
固定資産		
有形固定資産	3,787	4,226
無形固定資産		
のれん	15,345	14,029
その他	600	798
無形固定資産合計	15,946	14,827
投資その他の資産	10,323	9,142
固定資産合計	30,056	28,196
資産合計	67,123	63,275
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,345	2,597
短期借入金	2,530	1,500
未払金	7,390	6,901
未払法人税等	1,519	749
賞与引当金	839	911
役員賞与引当金	34	18
資産除去債務	—	1
その他	1,907	1,765
流動負債合計	17,567	14,444
固定負債		
役員退職慰労引当金	20	20
退職給付に係る負債	309	373
資産除去債務	968	1,069
その他	9	8
固定負債合計	1,307	1,472
負債合計	18,874	15,917

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	998	998
資本剰余金	1,112	1,112
利益剰余金	44,528	44,349
自己株式	△592	△592
株主資本合計	46,046	45,867
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28	37
繰延ヘッジ損益	111	30
為替換算調整勘定	2,226	1,575
退職給付に係る調整累計額	△176	△161
その他の包括利益累計額合計	2,190	1,482
非支配株主持分	11	7
純資産合計	48,248	47,358
負債純資産合計	67,123	63,275

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	53,372	55,888
売上原価	46,078	47,944
売上総利益	7,293	7,944
販売費及び一般管理費	5,446	5,682
営業利益	1,847	2,261
営業外収益		
受取利息	20	8
受取配当金	9	3
受取手数料	9	10
受取補償金	—	38
持分法による投資利益	—	8
その他	24	30
営業外収益合計	63	101
営業外費用		
持分法による投資損失	22	—
為替差損	11	39
その他	3	6
営業外費用合計	37	46
経常利益	1,873	2,316
特別利益		
投資有価証券売却益	315	9
その他	27	0
特別利益合計	342	9
特別損失		
固定資産売却損	5	0
関係会社株式売却損	—	89
投資有価証券評価損	—	344
その他	—	30
特別損失合計	5	465
税金等調整前四半期純利益	2,210	1,861
法人税、住民税及び事業税	777	538
法人税等調整額	136	△1
法人税等合計	913	537
四半期純利益	1,296	1,324
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,296	1,327

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
四半期純利益	1,296	1,324
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△146	9
繰延ヘッジ損益	23	△80
為替換算調整勘定	△907	△648
退職給付に係る調整額	22	15
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△2
その他の包括利益合計	△1,006	△707
四半期包括利益	289	617
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	289	620
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,210	1,861
減価償却費	767	788
のれん償却額	870	839
投資有価証券売却損益(△は益)	△315	△9
投資有価証券評価損益(△は益)	—	344
関係会社株式売却損益(△は益)	—	89
引当金の増減額(△は減少)	126	63
受取利息及び受取配当金	△29	△12
持分法による投資損益(△は益)	22	△8
売上債権の増減額(△は増加)	1,227	1,548
たな卸資産の増減額(△は増加)	△258	△142
仕入債務の増減額(△は減少)	△452	△728
未払金の増減額(△は減少)	△87	△421
その他	△591	△551
小計	3,490	3,661
利息及び配当金の受取額	29	13
利息の支払額	△2	△1
法人税等の支払額	△873	△1,260
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,644	2,412
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△553	△1,031
投資有価証券の取得による支出	△176	—
投資有価証券の売却による収入	922	52
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△50	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△101
その他	△623	△632
投資活動によるキャッシュ・フロー	△481	△1,713
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△800	△759
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△1,034	△1,240
その他	△33	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,867	△2,003
現金及び現金同等物に係る換算差額	△43	△50
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	252	△1,354
現金及び現金同等物の期首残高	14,286	16,270
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	26	99
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,564	15,015

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンタクトセ ンター事業	バックオフィ ス事業	フィールドオ ペレーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	42,685	7,558	3,128	53,372	—	53,372
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1	18	37	57	△57	—
計	42,687	7,576	3,166	53,430	△57	53,372
セグメント利益	1,127	646	74	1,848	△1	1,847

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンタクトセ ンター事業	バックオフィ ス事業	フィールドオ ペレーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	45,088	7,678	3,121	55,888	—	55,888
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2	9	10	22	△22	—
計	45,090	7,687	3,131	55,910	△22	55,888
セグメント利益	1,656	604	1	2,261	0	2,261

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

子会社の設立

当社は、2018年10月16日開催の取締役会において、以下のとおり子会社を設立することを決議いたしました。

1. 子会社設立の目的

コミュニケーションのデジタル化が急速に進展する中、テクノロジーを活用したデジタルサービスの開発・運用力を強化し、バーチャルエージェント®をはじめとした「デジタル接客」領域におけるお客様企業のニーズに迅速に応えることで、当社グループが提供するCRMサービスの強化を図るものです。

2. 設立する会社の名称、事業内容、規模

- | | |
|---------|----------------|
| (1)名称 | りらいあデジタル株式会社 |
| (2)事業内容 | デジタルサービスの開発・運用 |
| (3)資本金 | 100百万円 |

3. 設立の時期

2018年10月23日

4. 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

- | | |
|-------------|--------|
| (1)取得する株式の数 | 1,000株 |
| (2)取得価額 | 200百万円 |
| (3)取得後の持分比率 | 100% |